

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 登録実用新案公報 (U)

(11) 実用新案登録番号

第3057080号

(45) 発行日 平成11年(1999) 3月26日

(24) 登録日 平成10年(1998)12月16日

(51) Int.Cl.⁶

識別記号

F I

H 0 4 M 1/274

H 0 4 M 1/274

H 0 4 Q 7/38

1/00

N

H 0 4 M 1/00

1/21

L

1/21

H 0 4 B 7/26

1 0 9 Q

評価書の請求 未請求 請求項の数 6 O L (全 19 頁)

(21) 出願番号 実願平10-6661

(22) 出願日 平成10年(1998) 8月28日

(73) 実用新案権者 396005656

株式会社エス・アイ・シー

東京都豊島区池袋2丁目60番6-1011号

(72) 考案者 植谷 勉

東京都豊島区池袋2丁目60番6-1011号

株式会社エス・アイ・シー内

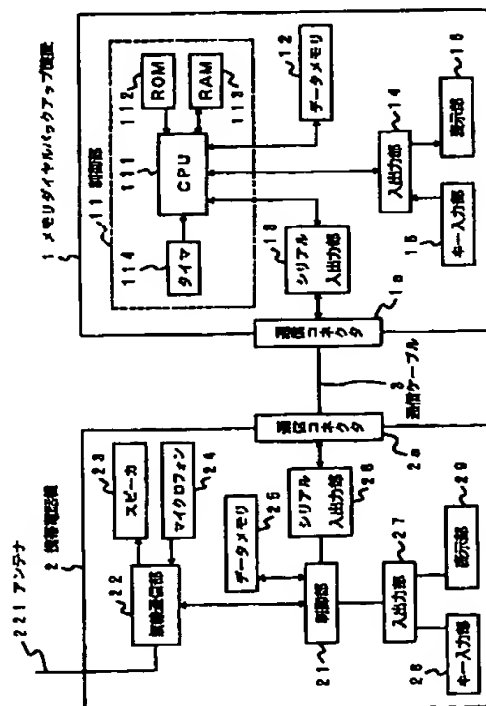
(74) 代理人 弁理士 三澤 正義

(54) 【考案の名称】 携帯電話機のメモリダイヤルバックアップ装置

(57) 【要約】

【課題】 携帯電話機のメモリダイヤルデータをバックアップするためには費用がかかり、かつ操作も複雑である。

【解決手段】 制御部11は、携帯電話機2からメモリダイヤルデータを受け取ってデータメモリ12に格納してバックアップする。また、制御部11は、携帯電話機2に対応した最速の通信速度を設定し、設定された通信速度の値に基づいて、読出時には、読出元の携帯電話機2からメモリダイヤルデータを読み出し、書込時には、メモリダイヤルデータをデータメモリ12から読み出して、書込先の携帯電話機2に書き込むように構成した。



【実用新案登録請求の範囲】

【請求項1】 メモリダイヤルデータが登録されたダイヤルデータ記憶装置から前記メモリダイヤルデータを読み出す読出手段と、読み出された前記メモリダイヤルデータを記憶する記憶手段と、前記ダイヤルデータ記憶装置またはメモリダイヤルデータが登録可能な別のダイヤルデータ記憶装置に、少なくとも前記記憶手段に記憶されているメモリダイヤルデータを書き込む書込手段とを備えた携帯電話機のメモリダイヤルバックアップ装置において、

読出元または書込先の前記ダイヤルデータ記憶装置に対応した少なくとも通信速度を含んだ通信設定値を設定する設定手段を備え、

前記設定手段によって設定された通信設定値に基づいて、前記読出手段は読出元の前記ダイヤルデータ記憶装置からメモリダイヤルデータを読み出し、前記書込手段は書込先の前記ダイヤルデータ記憶装置にメモリダイヤルデータを書き込むことを特徴とする携帯電話機のメモリダイヤルバックアップ装置。

【請求項2】 前記ダイヤルデータ記憶装置は携帯電話機に内蔵され、前記設定手段によって、前記通信速度として前記携帯電話機が通信可能な最も速い通信速度が設定されることを特徴とする請求項1記載の携帯電話機のメモリダイヤルバックアップ装置。

【請求項3】 メモリダイヤルデータが登録された携帯電話機から前記メモリダイヤルデータを読み出す読出手段と、読み出された前記メモリダイヤルデータを記憶する記憶手段と、前記携帯電話機またはメモリダイヤルデータが登録可能な別の携帯電話機に、少なくとも前記記憶手段に記憶されているメモリダイヤルデータを書き込む書込手段とを備えた携帯電話機のメモリダイヤルバックアップ装置において、

前記記憶手段に記憶されているメモリダイヤルデータについて、読出元の前記携帯電話機の判別コードと、書込先の前記携帯電話機の判別コードとを比較し、前記両判別コードが異なる場合に前記メモリダイヤルデータを書込先の前記携帯電話機のフォーマットに従って変換する変換手段を備え、

前記書込手段は変換された前記メモリダイヤルデータを書込先の前記携帯電話機に書き込むことを特徴とする携帯電話機のメモリダイヤルバックアップ装置。

【請求項4】 メモリダイヤルデータが登録された携帯電話機から前記メモリダイヤルデータを読み出す読出手段と、読み出された前記メモリダイヤルデータを記憶する記憶手段と、前記携帯電話機またはメモリダイヤルデータが登録可能な別の携帯電話機に、少なくとも前記記憶手段に記憶されているメモリダイヤルデータを書き込む書込手段と、前記記憶手段に記憶されているメモリダイヤルデータを表示する表示手段とを備えた携帯電話機*

* のメモリダイヤルバックアップ装置において、

書込時には書込先の前記携帯電話機に登録されたメモリダイヤルデータの有無を判定し、読出時には前記記憶手段に記憶されているメモリダイヤルデータの有無を判定する判定手段と、書込時または読出時に、前記判定手段によってメモリダイヤルデータ有り判定されたときには、この旨を前記表示手段に表示させる表示制御手段とを備えたことを特徴とする携帯電話機のメモリダイヤルバックアップ装置。

10 【請求項5】 前記記憶手段は、予め所定のデータが書き込まれ、かつ、新たな書込みが禁止された再書込不可領域を有していることを特徴とする請求項4記載の携帯電話機のメモリダイヤルバックアップ装置。

【請求項6】 前記読出手段には時刻を計るタイマが接続され、読出時には、前記タイマによって計られた読出時の時刻が前記記憶手段に記憶されることを特徴とする請求項4または5記載の携帯電話機のメモリダイヤルバックアップ装置。

【図面の簡単な説明】

20 【図1】 本考案の実施の形態1によるメモリダイヤルバックアップ装置及び同メモリダイヤルバックアップ装置が接続されたデータメモリ付きの携帯電話機の構成を示すブロック図である。

【図2】 同メモリダイヤルバックアップ装置のキー入力部の構成を示す平面図である。

【図3】 同メモリダイヤルバックアップ装置の表示部における表示例を示す図である。

30 【図4】 同メモリダイヤルバックアップ装置または携帯電話機のデータメモリに格納されるメモリダイヤルデータの構造を示す図である。

【図5】 同メモリダイヤルバックアップ装置のメモリダイヤルデータ読出時の動作を説明するためのフローチャートである。

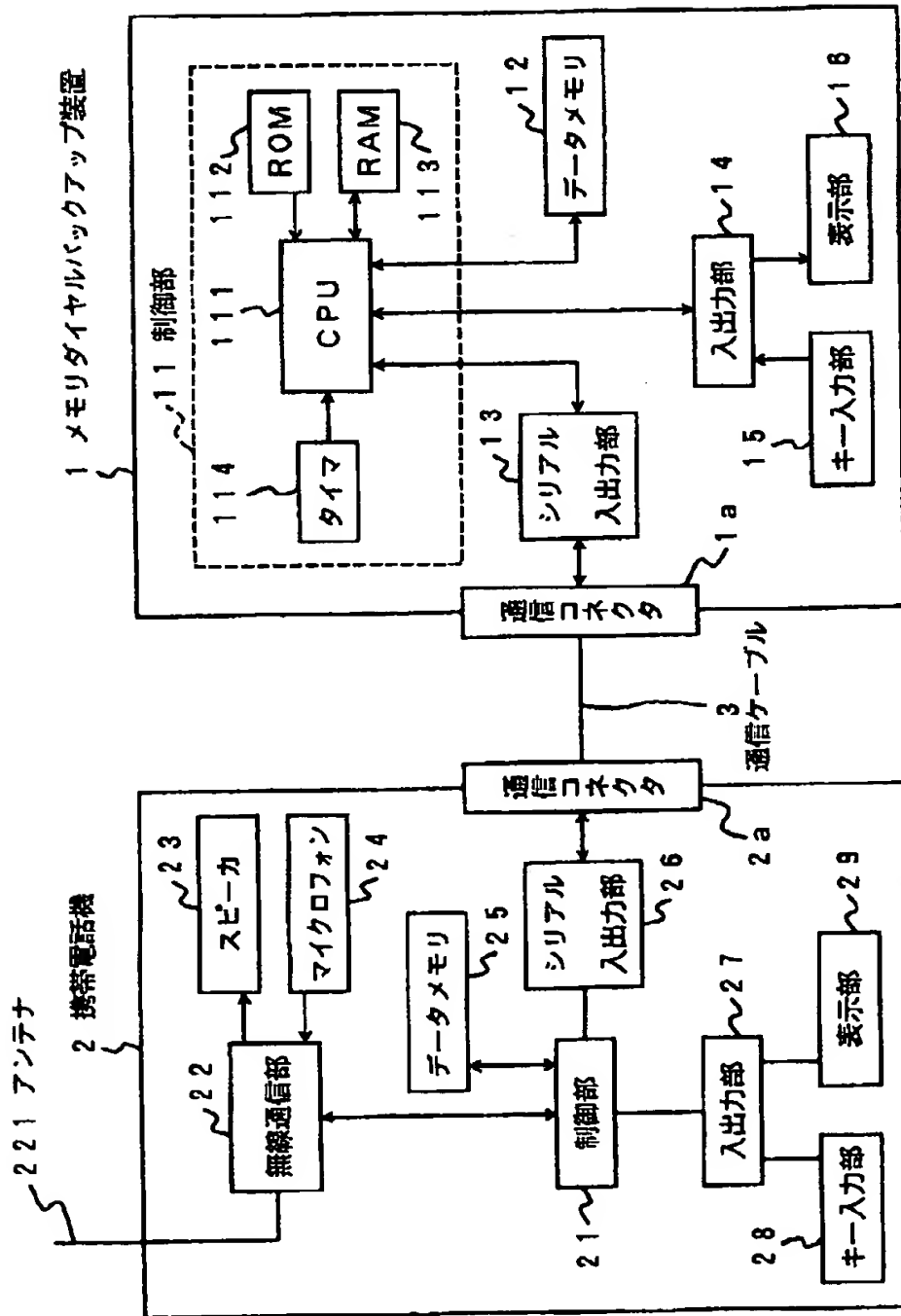
【図6】 同表示部及び同キー入力部の動作を説明するための説明図である。

【図7】 同メモリダイヤルバックアップ装置のメモリダイヤルデータ書込時の動作を説明するためのフローチャートである。

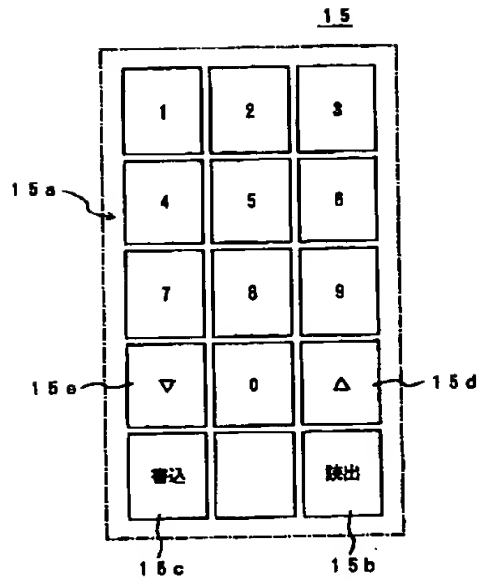
【符号の説明】

- 40 1 メモリダイヤルバックアップ装置
- 11 制御部（読出手段、書込手段、変換手段、判定手段、表示制御手段）
- 12 データメモリ（記憶手段）
- 13 シリアル入出力部（読出手段、書込手段）
- 16 表示部（表示手段）
- 114 タイマ
- 2 携帯電話機
- 25 データメモリ（ダイヤルデータ記憶装置）

【図1】



【図2】



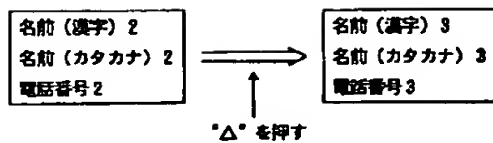
【図3】

| |
|--------------|
| 田 中 太 郎 |
| タナカ タロウ |
| 030-000-0000 |

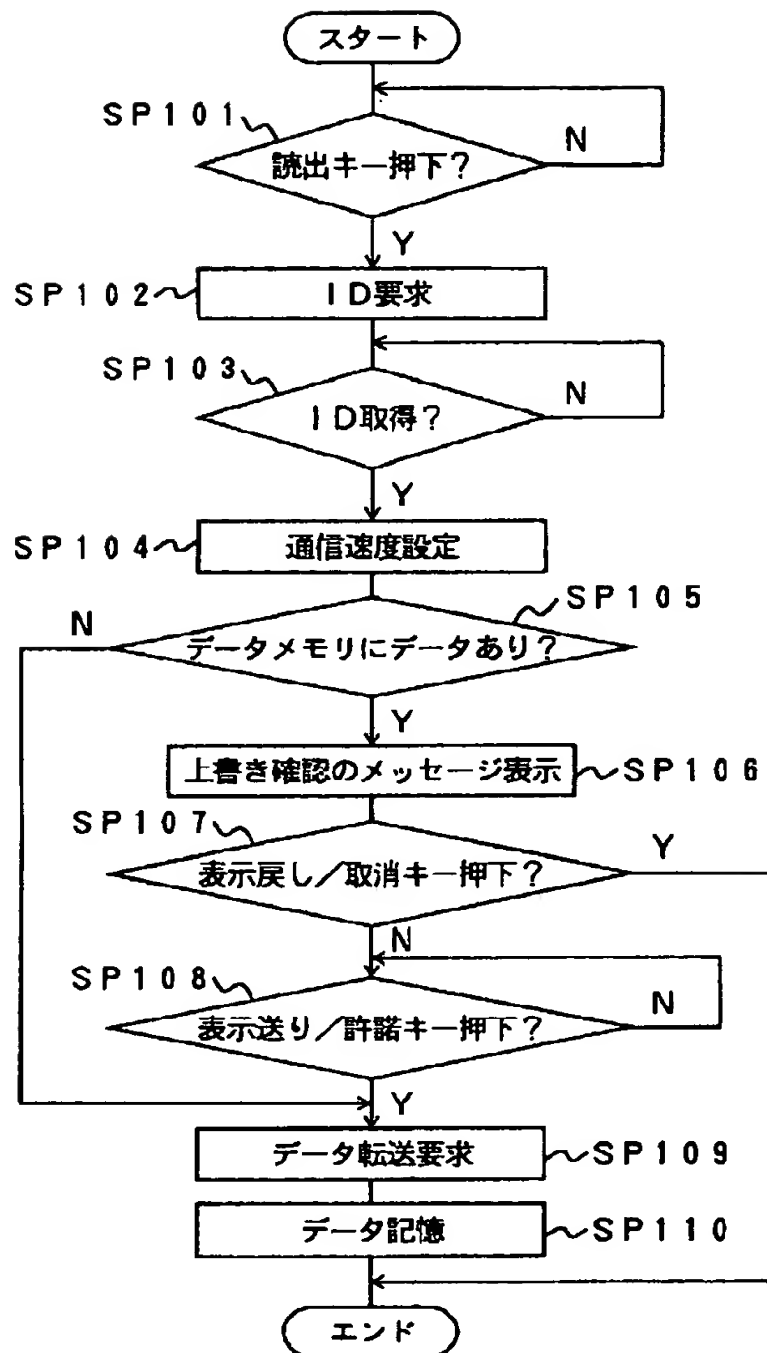
【図4】

| |
|------------|
| インデックス001 |
| 名前(漢字) 1 |
| 名前(カタカナ) 1 |
| 電話番号 1 |
| インデックス002 |
| 名前(漢字) 2 |
| 名前(カタカナ) 2 |
| 電話番号 2 |
| インデックス003 |
| 名前(漢字) 3 |
| 名前(カタカナ) 3 |
| 電話番号 3 |

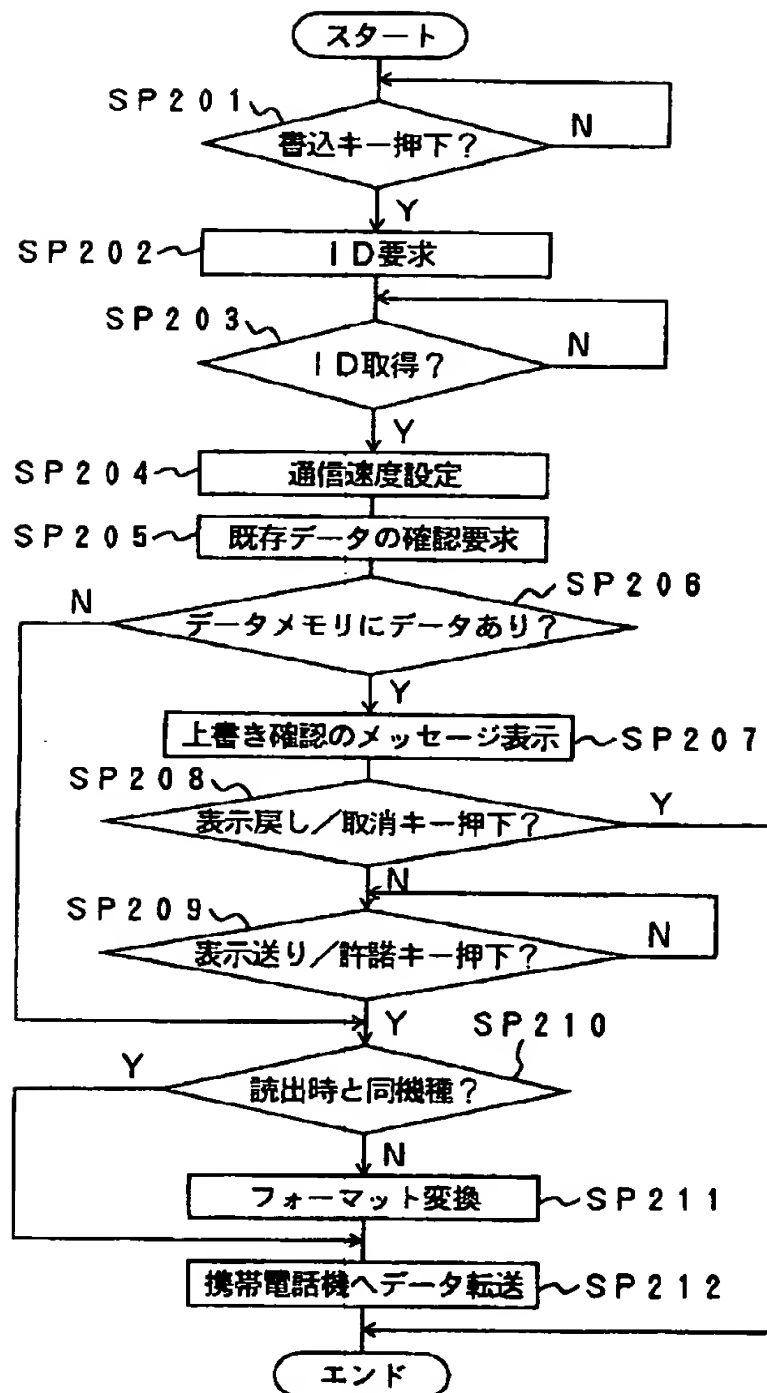
【図6】



【図5】



【図7】



【考案の詳細な説明】**【0001】****【考案の属する技術分野】**

本考案は、例えば、携帯電話機に登録されているメモリダイヤルデータを記憶する携帯電話機のメモリダイヤルバックアップ装置に関する。

【0002】**【従来技術】**

携帯電話機は、通常、メモリダイヤル機能を有しており、電話番号と対応する相手先名等とからなるメモリダイヤルデータを多数記憶できるようになっている。そして、最近の機種では数百件ものメモリダイヤルデータが登録できることが当たり前となっている。

【0003】

徐々にデータを蓄積していった一度数百件も登録されてしまうと、この記録を当てにしてしまうので、電子手帳等別の機器へ同一のメモリダイヤルデータを二重に登録したり、筆記によって写しておくことはまれである。

【0004】

こういう状況で、携帯電話機を紛失してしまったりすると、貴重なメモリダイヤルデータを全て失ってしまうこととなり大きな損失を被るという問題点がある。また、携帯電話機を交換する際、通信事業者が異なるときはメモリダイヤルデータの移替えは行われない。

【0005】

また、通話中に携帯電話機のメモリダイヤル機能を利用する際には、一度送受話器を離して操作を行わなければならないので、会話が途中でとぎれて大変煩わしい思いを強いられる。

【0006】

そこで、この携帯電話機とは別に、メモリダイヤルデータをバックアップするために、モバイル通信機器やパーソナルコンピュータ等を購入し、さらに、携帯電話機との通信ユニットやメモリダイヤル管理ツール等を使用することが考えられる。

【0007】

【考案が解決しようとする課題】

しかしながら、このような方法では、機器の購入のために多額の費用を要するし、取り敢えずメモリダイヤルデータの管理を目的とする場合には無駄が多い。また、操作も複雑であって、誰でも簡単に使いこなせるわけでもない。

【0008】

そこで、本発明は上記事情に鑑みてなされたものであり、誰でも簡単にしかも安価にメモリダイヤルデータのバックアップができるメモリダイヤルバックアップ装置を提供することを目的とする。

【0009】

【課題を解決するための手段】

上記課題を解決するために、請求項1記載の考案は、メモリダイヤルデータが登録されたダイヤルデータ記憶装置から前記メモリダイヤルデータを読み出す読出手段と、読み出された前記メモリダイヤルデータを記憶する記憶手段と、前記ダイヤルデータ記憶装置またはメモリダイヤルデータが登録可能な別のダイヤルデータ記憶装置に、少なくとも前記記憶手段に記憶されているメモリダイヤルデータを書き込む書込手段とを備えた携帯電話機のメモリダイヤルバックアップ装置において、読出元または書込先の前記ダイヤルデータ記憶装置に対応した少なくとも通信速度を含んだ通信設定値を設定する設定手段を備え、前記設定手段によって設定された通信設定値に基づいて、前記読出手段は読出元の前記ダイヤルデータ記憶装置からメモリダイヤルデータを読み出し、前記書込手段は書込先の前記ダイヤルデータ記憶装置にメモリダイヤルデータを書き込むことを特徴とする。

【0010】

上記課題を解決するために、請求項2記載の考案は、請求項1記載の携帯電話機のメモリダイヤルバックアップ装置において、前記ダイヤルデータ記憶装置は携帯電話機に内蔵され、前記設定手段によって、前記通信速度として前記携帯電話機が通信可能な最も速い通信速度が設定されることを特徴とする。

【0011】

上記課題を解決するために、請求項3記載の考案は、メモリダイヤルデータが登録された携帯電話機から前記メモリダイヤルデータを読み出す読出手段と、読み出された前記メモリダイヤルデータを記憶する記憶手段と、前記携帯電話機またはメモリダイヤルデータが登録可能な別の携帯電話機に、少なくとも前記記憶手段に記憶されているメモリダイヤルデータを書き込む書込手段とを備えた携帯電話機のメモリダイヤルバックアップ装置において、前記記憶手段に記憶されているメモリダイヤルデータについて、読出元の前記携帯電話機の判別コードと、書込先の前記携帯電話機の判別コードとを比較し、前記両判別コードが異なる場合に前記メモリダイヤルデータを書込先の前記携帯電話機のフォーマットに従って変換する変換手段を備え、前記書込手段は変換された前記メモリダイヤルデータを書込先の前記携帯電話機に書き込むことを特徴とする。

【0012】

上記課題を解決するために、請求項4記載の考案は、メモリダイヤルデータが登録された携帯電話機から前記メモリダイヤルデータを読み出す読出手段と、読み出された前記メモリダイヤルデータを記憶する記憶手段と、前記携帯電話機またはメモリダイヤルデータが登録可能な別の携帯電話機に、少なくとも前記記憶手段に記憶されているメモリダイヤルデータを書き込む書込手段と、前記記憶手段に記憶されているメモリダイヤルデータを表示する表示手段とを備えた携帯電話機のメモリダイヤルバックアップ装置において、書込時には書込先の前記携帯電話機に登録されたメモリダイヤルデータの有無を判定し、読出時には前記記憶手段に記憶されているメモリダイヤルデータの有無を判定する判定手段と、書込時または読込時に、前記判定手段によってメモリダイヤルデータ有りと判定されたときには、この旨を前記表示手段に表示させる表示制御手段とを備えたことを特徴とする。

【0013】

上記課題を解決するために、請求項5記載の考案は、請求項4記載の携帯電話機のメモリダイヤルバックアップ装置において、前記記憶手段は、予め所定のデータが書き込まれ、かつ、新たな書込みが禁止された再書込不可領域を有していることを特徴とする。

【0014】

上記課題を解決するために、請求項6記載の考案は、請求項4または5記載の携帯電話機のメモリダイヤルバックアップ装置において、前記読出手段には時刻を計るタイマが接続され、読出時には、前記タイマによって計られた読出時の時刻が前記記憶手段に記憶されることを特徴とする。

【0015】

【考案の実施の形態】

以下、本考案の実施の形態を図面を参照して詳細に説明する。

【0016】

実施の形態1.

図1は本考案の実施の形態1によるメモリダイヤルバックアップ装置及び同メモリダイヤルバックアップ装置が接続されたデータメモリ付きの携帯電話機の構成を示すブロック図、図2は同メモリダイヤルバックアップ装置のキー入力部の構成を示す平面図、図3は同メモリダイヤルバックアップ装置の表示部における表示例を示す図、図4は同メモリダイヤルバックアップ装置または携帯電話機のデータメモリに格納されるメモリダイヤルデータの構造を示す図、図5は同メモリダイヤルバックアップ装置のメモリダイヤルデータ読出時の動作を説明するためのフローチャート、図6は同表示部及び同キー入力部の動作を説明するための説明図、図7は同メモリダイヤルバックアップ装置のメモリダイヤルデータ書込時の動作を説明するためのフローチャートである。

【0017】

図1において、1はメモリダイヤルバックアップ装置、2はデータメモリ付きの携帯電話機、1aはメモリダイヤルバックアップ装置1側の通信コネクタ、2aは携帯電話機2側の通信コネクタ、3は通信ケーブルである。

【0018】

同図に示すように、メモリダイヤルバックアップ装置1は、装置各部を所定のプログラムに従って制御したり必要な演算や判断を行う制御部（読出手段、書込手段、変換手段、判定手段、表示制御手段）11と、メモリダイヤルデータを記憶するための書換可能なデータメモリ（記憶手段）12と、シリアル／パラレル

変換を行うシリアル入出力部（読出手段、書込手段）13と、入出力部14と、データを入力するためのキー入力部15と、メモリダイヤルデータを表示する表示部（表示手段）16とを有してなっている。

【0019】

制御部11は、装置各部を所定のプログラムに従って制御したり、必要な演算や判断を行うCPU111と、各種演算や制御を行うためのプログラムが格納されたROM112と、例えば、演算結果等を一時記憶するRAM113と常時時刻を計測しているタイマ114とから構成されている。

【0020】

ROM112には、携帯電話機2のIDコードに対応したフォーマットの変換の手順が記述されたフォーマット変換プログラム等が格納されている。

【0021】

データメモリ12は例えば、EEPROMからなっている。このデータメモリ12には例えば、500件分のメモリダイヤルデータが格納可能である。なお、データメモリ12の一部の領域には、予め特定の広告目的のメモリダイヤルデータが書き込まれ、再書込が禁止される。

【0022】

キー入力部15は図2に示すように、数字キー15aと、データ読出時に用いる読出キー15bと、データ書込時に用いる書込キー15cと、表示部16の表示を1ページ送ると共に上書き確認の際に用いる表示送り／許諾キー15dと、同表示を1ページ戻すと共に上書き確認の際に用いる表示戻し／取消キー15eとからなっている。

【0023】

後述するように上書き確認の際には、表示送り／許諾キー15dは、上書きしても良いときに押下され、表示戻し／取消キー15eは、上書きをしたくないときに、読出しまたは書込みを取り止めるために押下される。

【0024】

表示部16は、図3に示すように、氏名（漢字）、氏名（カタカナ）、電話番号からなる1件分のメモリダイヤルデータを1つのページに表示する。この表示

部16には例えば液晶表示材が用いられる。

【0025】

携帯電話機2は、電話機各部を制御する制御部21と、アンテナ221や変復調部等を有する無線通信部22と、スピーカ23と、マイクロフォン24と、メモリダイヤルデータが記憶されたデータメモリ25と、シリアル入出力部26と、入出力部27と、キー入力部28と、表示部29とを有してなっている。

【0026】

なお、制御部21も、制御部11と同様に図示せぬCPUとROMとRAMとから構成され、ROMには、製造番号からなるIDコード（判別コード）が格納されている。

【0027】

データメモリ25には、例えば、図4に示すように、インデックス、名前（漢字）、名前（カタカナ）、電話番号からなる1件分のメモリダイヤルデータが多数格納される。携帯電話機2の機種によっては、所属名（グループ名）等が追加されたり、名前（漢字）が省略されたり、また、表示順序が異なったりすることがある。

【0028】

次に動作について説明する。

【0029】

携帯電話機2からのメモリダイヤルデータの読出方法から説明する。

【0030】

まず、キー入力部15の読出キー15bを押下する（ステップSP101（図5））。これによって、制御部11はID要求信号を作成し、携帯電話機2へ送出する（ステップSP102）。携帯電話機2の制御部21はこのID要求信号を受け取ると、制御部21のROMからIDコードを読み出して、メモリダイヤルバックアップ装置1側へ送出する。

【0031】

制御部11は、IDコードを受け取ると（ステップSP103）、IDコードをデータメモリ12に記憶する。これ以降の動作においては、このIDコードに

よって相手の携帯電話機2の機種の違いを識別し、例えば、機種によって若干異なった通信手順を採用して、転送等の処理を行う。

【0032】

次に、制御部11は、通信可能な通信速度の値を携帯電話機2に問い合わせ、その回答に応じて転送速度を選定する（ステップSP104）。すなわち、制御部11は、予め初期値として、例えば、600bpsに設定された通信速度を、携帯電話機2から2400bpsまたは9600bpsで通信可能という回答を受け取った場合は、最も速い9600bpsに変更する。

【0033】

次に、制御部11は、データメモリ12内の既存のデータの有無を確認する（ステップSP105）。もし、データがある場合は、ステップSP106へ進んで、表示部16に「データを上書きしてもよいですか？」というメッセージを表示させ、応答のキー入力を待機する。データがない場合は、ステップSP109へ進む。

【0034】

使用者は表示部16の表示を確認し、上書きしたくないときは、表示戻し／取消キー15eを押下する（ステップSP107）。また、上書きしても良いときは、表示送り／許諾キー15dを押下する（ステップSP108）。

【0035】

次に、制御部11は、データ転送許可信号を作成して携帯電話機2側へ送出し、メモリダイヤルデータの転送を要求する（ステップSP109）。

【0036】

携帯電話機2の制御部21は、データ転送許可信号を受け取ると、データメモリ25内からメモリダイヤルデータを読み出して、シリアル入出力部26へ送出する。メモリダイヤルデータは所定の通信速度で、通信ケーブル3を介して、メモリダイヤルバックアップ装置1へ送られる。

【0037】

制御部11は、設定された通信速度に基づいてシリアル入出力部13を制御し、シリアル入出力部13から取り込まれたメモリダイヤルデータを、取込時の年

月日や時刻からなる時刻データと共に、データメモリ12に格納する（ステップSP110）。

【0038】

バックアップされたメモリダイヤルデータは、例えば、図3に示すように表示部16に表示される。この表示は、表示送り／許諾キー15dを押下することによって、図6に示すように、1ページ送って表示させることができる。なお、1ページ戻したいときは、表示戻し／取消キー15eを押下する。

【0039】

次に携帯電話機2へのメモリダイヤルデータの書込方法について説明する。

【0040】

まず、書込キー15cを押下する（ステップSP201（図7））。これによって、制御部11はID要求信号を作成し、携帯電話機2へ送出する（ステップSP202）。携帯電話機2の制御部21はこのID要求信号を受け取ると、上記ROMからIDコードを読み出して、メモリダイヤルバックアップ装置1側へ送出する。

【0041】

制御部11は、IDコードを受け取ると（ステップSP203）、このIDコードをデータメモリ12に格納し、読出時と同様に、通信速度を設定する（ステップSP204）。次に、携帯電話機2のデータメモリ25内の既存のデータの有無を確認するための確認要求信号を作成し、携帯電話機2へ送出する（ステップSP205）。

【0042】

携帯電話機2の制御部21は確認要求信号を受け取ると、データメモリ25内の既存のデータの有無を確認し、データの有無に応じた回答信号をメモリダイヤルバックアップ装置1へ返送する。

【0043】

制御部11は、ステップSP206において、もし、データ有りの回答を得た場合は、表示部16に「データを上書きしてもよいですか？」というメッセージを表示させて（ステップSP207）、応答のキー入力を待機する。ステップS

P206において、データなしの回答を得た場合は、ステップSP210へ進む。

【0044】

使用者は表示部16の表示を確認し、上書きしたくないときは、表示戻し／取消キー15eを押下する（ステップSP208）。また、上書きしても良いときは、表示送り／許諾キー15dを押下する（ステップSP209）。

【0045】

次に、制御部11は、現在接続している携帯電話機2のIDコードと、データメモリ12にメモリダイヤルデータをバックアップしたときの転送元の携帯電話機2のIDコードとを比較し（ステップSP210）、同じ場合はステップSP212へ進み、もし異なる場合には、現在接続している携帯電話機2のIDコードに対応したフォーマットに変換する（ステップSP211）。

【0046】

ここで、制御部11は、データメモリ12からメモリダイヤルデータを一旦RAM113に記憶させた後、フォーマット変換プログラムに従って、変換された状態で、メモリダイヤルデータをデータメモリ12に再び格納する。

【0047】

例えば、前回バックアップ時には、図4に示すように、1件分のメモリダイヤルデータが、インデックス、名前（漢字）、名前（カタカナ）、電話番号からなっており、今回転送する先の携帯電話機2においては、名前（漢字）が省略されるフォーマットの場合は、データメモリ12から読み出したメモリダイヤルデータから名前（漢字）のデータを削除することとなる。

【0048】

ステップSP212において、制御部11は、メモリダイヤルデータを読み出して、シリアル入出力部13へ送り、メモリダイヤルデータは、携帯電話機2へ転送される。ここで、制御部11は、設定された通信速度に基づいて、シリアル入出力部13を制御する。

【0049】

携帯電話機2においては、制御部21がメモリダイヤルデータをデータメモリ

25に格納する。

【0050】

以上説明したように、本実施の形態1によれば、制御部11が、読出元または書込先の携帯電話機2に対応した通信速度を設定し、設定された通信速度の値に基づいて、読出時には、読出元の携帯電話機2からメモリダイヤルデータを読み出し、書込時には、メモリダイヤルデータをデータメモリ12から読み出して、書込先の携帯電話機2に書き込むように構成したので、簡単かつ安価にメモリダイヤルデータのバックアップができると共に、例えば、接続する携帯電話機2の機種によって最速の通信速度がかわっても、相手先の通信速度に合わせてデータの授受を行い、確実かつ効率的にメモリダイヤルデータの転送を行うことができる。

【0051】

また、制御部11は、書込時には、データメモリ12に記憶されているメモリダイヤルデータについて、読出時の携帯電話機2のIDコードと、書込先の携帯電話機2のIDコードとを比較し、両ID判別コードが異なる場合にメモリダイヤルデータを書込先の携帯電話機2のフォーマットに従って変換し、変換されたメモリダイヤルデータを書込先の携帯電話機2に書き込むように構成したので、例えば、接続する携帯電話機2の機種によってメモリダイヤルデータの構造のフォーマットがかわっても、書込先のフォーマットに合わせてバックアップしていたメモリダイヤルデータを書き込むことができる。

【0052】

制御部11が、書込時には書込先の携帯電話機2のデータメモリ25に登録されたメモリダイヤルデータの有無を判定し、読出時にはデータメモリ12に記憶されているメモリダイヤルデータの有無を判定し、メモリダイヤルデータ有りと判定された時には、この旨のメッセージを表示部16に表示させるように構成したので、例えば、表示部16の表示を確認してから読出し（バックアップ）や書込みを行うことで、重要なデータを誤って消去してしまうのを予め防止することができる。

【0053】

また、データメモリ12の再書込禁止領域には、例えば、予め特定の広告目的のメモリダイヤルデータが書き込まれ、新たな書込みが禁止されているので、携帯電話機2の使用者はこのデータを利用することができる。

【0054】

また、メモリダイヤルデータは、バックアップ時の年月日や時刻と共にデータメモリ12に格納されるので、例えば、書き込まれているメモリダイヤルデータが不用となった古いデータであるかどうかの判別が行いやすい。

【0055】

以上、本考案の実施の形態を詳述してきたが、具体的な構成はこの実施の形態に限られるものではない。

【0056】

例えば、上述した実施の形態では、IDコードを自動的に受け取る場合について述べたが、IDコードをキー入力部15から入力するようにしても良い。

【0057】

また、データメモリ12としてはEEPROMに限らず、フラッシュメモリやSRAM（但し、電池によりバックアップを行う）等を用いても良い。

【0058】

また、メモリダイヤルバックアップ装置1を携帯電話機2に接続してメモリダイヤルデータの授受を行う場合について述べたが、例えば、メモリダイヤルバックアップ装置1同士を接続してメモリダイヤルデータの転送を行うようにしても良い。

【0059】

【考案の効果】

以上説明したように、本考案によれば、設定手段が読出元または書込先のダイヤルデータ記憶装置または携帯電話機に対応した少なくとも通信速度を含んだ通信設定値を設定し、この通信設定値に基づいて、読出時には、読出手段は読出元のダイヤルデータ記憶装置または携帯電話機からメモリダイヤルデータを読み出し、書込時には、書込手段はメモリダイヤルデータを記憶手段から読み出して、書込先のダイヤルデータ記憶装置または携帯電話機に書き込むように構成したの

で、簡単かつ安価にメモリダイヤルデータのバックアップができると共に、例えば、接続するダイヤルデータ記憶装置または携帯電話機の機種によって通信可能な最速の通信速度がかわっても、相手先の通信速度に合わせてデータの授受を行い、確実かつ効率的にメモリダイヤルデータの転送を行うことができる。

【0060】

また、変換手段は記憶手段に記憶されているメモリダイヤルデータについて、読出元の携帯電話機の判別コードと、書込先の携帯電話機の判別コードとを比較し、両判別コードが異なる場合にメモリダイヤルデータを書込先の携帯電話機のフォーマットに従って変換し、書込手段は変換されたメモリダイヤルデータを書込先の携帯電話機に書き込むように構成したので、例えば、接続する携帯電話機の機種によってメモリダイヤルデータの構造のフォーマットがかわっても、書込先のフォーマットに合わせてバックアップしていたメモリダイヤルデータを書き込むことができる。

【0061】

また、判定手段が、書込時には書込先の携帯電話機に登録されたメモリダイヤルデータの有無を判定し、読出時には記憶手段に記憶されているメモリダイヤルデータの有無を判定し、書込時または読込時に、表示制御手段が、判定手段によってメモリダイヤルデータ有りとは判定された時には、この旨を表示手段に表示させるように構成したので、例えば、表示手段の表示を確認してから、読出し（バックアップ）や書込みを行うことで、重要なデータを誤って消去してしまうことを予め防止することができる。

【0062】

また、記憶手段は、予め所定のデータが書き込まれ、かつ、新たな書込みが禁止された再書込不可領域を有しているので、例えば、この再書込不可領域に予め特定の広告目的のメモリダイヤルデータを書き込んでおいて利用することができる。

【0063】

また、メモリダイヤルデータは、読出時（バックアップ時）の時刻と共に記憶手段に格納されるので、例えば、更新すべきかどうかの判定等、メモリダイヤル

データの管理が容易となる。